

令和2年度 学力向上指導改善プラン

志手原小学校長 植木 俊也

学校教育目標		自ら学ぶ意欲と方法を身につけた心豊かな志手原っ子の育成	
推進主体		学力向上委員会	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○学校司書教諭と連携をはかり、調べ学習を中心に、学校図書を活用した学習に取り組めた。また児童の読書量も増加している。今後も読書活動の充実を図り、豊かな感性や情操を育んでいく。 ○「なかよし集会」や「志手原フェスティバル」等の学校行事に加え、全校朝会や、朝の会、終わりの会でもスピーチを取り入れ、話す力・表現力の向上に努めた。全体の前で話す機会を増やしたことで、全体の前でも、堂々と話すことができる児童が増えてきている。 ○全国学力調査では、特に「話す・聞く」「言語」の領域で、課題があった。来年度もあのね帳や作文等で文章を書く活動を習慣づけると共に、書こうとする文章の構成全体を考える学習を多く取り入れていく。
		算数 数学	○朝の帯タイムに週に3回の計算タイムを継続実施する。児童が自分の習熟度にあわせた問題を選択し、個々のペースで楽しく課題に取り組んだ。基礎的な計算力もついてきている。 ○問題解決型の授業形態ができつつある。1時間の授業では、学習の「めあて」を立てる→「自分で考える」→みんなで「話し合う」→他の問題で「確かめる」→「ふりかえり」をするという授業形態を継続し、児童自ら問題を発見し解決する能力の向上を図る。 ○個人支援を大切にすることで伸びてきた児童も多い。今
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○概ね、どの学年教科においても学力はついてきていると思われるが、細かな計算間違いや漢字の筆順や似た字との間違い画数が一本足りないや多いなどの小さなミスが目立つ児童もいる。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○ノート指導については、算数科、国語科を中心に学校のスタンダードづくりに努めている。 ○学年の発達段階に応じた発表の仕方、話し方を指導し、進んで発表しようとする児童が増えてきた。 ○学習発表会では、わかりやすい掲示物の工夫やパワーポイントを使った発表等、様々な表現の工夫が見られた。国語科の書くこと、聞くことも関連つけた指導を行う。 ○2学期から、始業式、終業式で自分の学習の成果を発表する時間を新たに設けた。多くの人の前でも大きな声で話せる児童が増える等の成果が見られる。来年度も取組	
学力向上に係るの学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	○夏休みには、生活リズムカードを実施した。家庭の協力を得て生活の振り返りをするとともに、家庭での実践を促すことができた。 ○養護教諭や栄養教諭による保健指導、栄養指導で、健康・安全に気をつけて生活しようとする児童が増えてきている。 ○学校評価では、「毎日、学校に行くのが楽しみだ」「友だちは自分のことを大切にしてくれている」「先生たちは一人ひとりを大切にしてくれる」が80%を越えており、自尊心が育ってきていることがうかがえる。 ○全国学力調査では、85.7%の児童が「自分によいところがある。」と答えている。授業で「わかった。できた。」という終結を増やしたり、児童主体の特別活動を企画させ	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○学校評価では87%の児童が「誰にでも気持ちよくあいさつすることができる」と答えており、進んで挨拶する児童が増えた。今後も高学年から気持ちの良い挨拶への取組を広げていく。 ○家庭学習の手引きを、各家庭と児童に配布すると共に、家庭学習の取り組み方について児童や保護者に説明し、その充実を図った。また学級で児童に説明するとともに個人懇談を通じて、各家庭と個別に連携し家庭学習の	
校務内研究状況・研	校内研究の状況	○各教科で全教員1回以上の研究授業を実施した。 ○新学習システムの教員と連携し、基礎学力向上に努めることが出来た。	
	校内研修の状況	○後の学習にも活かしていくことのできる丁寧な整理されたノート作りができるようにする ○教師は、タブレットや電子黒板等情報機器を活用し、少人数であることを活かした多様な学び、効果的な学びを図れるように、情報活用能力の育成に努める。 ○ICT機器の活用に向けた基本的な操作方法や活用のアイデアについて研修する。	
家庭・校種間連携	家庭・地域等の状況	○放課後子ども教室については、毎週水曜日に開催されており、参加者も多い。 ○木曜日実施のがんばりタイムを活用して、学力の向上を図っている。	
	小・中における教科連携等の状況	○11月13日に上野台中学校区の4校交流会を実施しスムーズに進学に努めた。 ○中学校の入学説明会に6年生が参加し、英語の授業を体験した。 ○幼小中連携の会をそれぞれ設定し、課題を共有することができた。 ○R2年度の自然学校も、母子小・小野小・本校が合同で実施し、上野台中学校区の連携を一層充実していく。 ○教科化された外国語科において今後中学校だけでなく、上野台中学校区でも連携を図り、指導内容や授業の工夫・改善等を行っていく。	

		4月	2~3月	
学力向上に向けての重点的な目標	(指標となる数値等)	成果となる目標	具体的な行動目標	
		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	年度末評価	
		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価	
	○読む・書くなどの言語事項を中心とした基礎基本の定着 ○読解力の向上 ○読書活動の充実 ○話す聞く力の向上 ○ICT機器を活用し、子どもたちのつながりを大切に授業づくり	○実生活の様々な場面に応じて、論理的に書いたり、創造的に書いたり、情報を活用することができる。	○教科書の各単元末にある言葉の力を適宜応用し、授業の中で、書いたり、話したりする機会を多く設け、習熟を図っていく。 ○登場人物の相互関係や心情・場面についての変化を読み取ったり、文章を読んで考えたことについて、交流したりする学習活動を学年の発達段階に応じて取り入れていく。 ○学校司書と連携し、調べ学習などを中心に、学校図書室を活用した学習を進める。 ○ひょうごつまずきポイント指導事例集等を活用する。	
	○対話的な学びの場を位置づけた授業づくり ○ICT機器を活用し、子どもたちのつながりを大切に授業づくり	○実生活の様々な場面において数学的な見方・考え方を働かせて問題解決に活かすことができる。	○対話的な学びの場を取り入れた授業構成を定着させる。(ICTの活用含む) ○めあて・自力解決の方法・ふりかえり等のあるノート指導を行う。 ○朝の帯タイムに週あたり計算練習を取り入れ、習熟度に応じた計算練習ができるように、学習環境を整える。 ○家庭学習の課題として、計算練習を課する。 ○図形領域の学習では、多様な図形の具体物を使って、図形の特徴や角についての知識を基に考える場を設ける。	
	○漢字や計算等の基礎学力の向上 ○文章問題などの文章を読む力の向上	○前の学年までの配当漢字や四則演算の問題を9割程度理解することができる。	○テスト後には、誤答を解説して直しをさせることで児童一人一人が自分の間違いを認識し、次の機会の誤答を減らすことができるようにする	
	○聞く力・話す力の育成	○自分の考えをノートにまとめることができる ○場や目的に応じた話し方や言葉を選んで発表することができる ○各教科・領域の学習において児童がすすんで関わり合う機会を多くもつようにする	○国語科を中心に、大事なことを聞き落とさず、工夫してメモを取ったり、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う学習活動を取り入れたりして、聞く力・話す力をつけていく。 ○各教科の学習で、学年の発達段階に応じた発表の仕方、話し方を指導する。 ○各教科の学習で、適切な言葉の使い方を指導していく。 ○児童が進んで学習したくなる授業、学習したことを話したくなる授業の研究をし工夫する。	
	○自尊感情の向上	○「自分の意見や考え」を自信をもって話すことのできる児童を増やす ○生活面・学習面でのきめ細やかな支援・指導で、「自分にいいところがある」と自信をもって言うことのできる児童を増やす	○学校生活で、個々の児童と話す機会を増やしていくとともに、個人懇談等を通して、各家庭とも個別に連携し、児童の良いところをほめ、伸ばしていく。	
	○好ましい生活習慣の確立と定着	○家庭学習の手引きを活用して家庭での学習をすすめていくことのできる児童を増やす	○各家庭に配布している笑顔いっぱい 志手原っ子(家庭学習の定着に向けて)の取り組みを定着させていく。 ○学級懇談等を通じて、家庭学習への理解を求める。 ○予習や復習の仕方を指導し、自主学習に取り組ませる。 ○全校朝会等で、子どもたちにあいさつの意味を考えさせるとともに、自分から進んであいさつができるように呼びかける。	
		○研究推進委員会を中心に、児童の発達段階を見通したノートの使い方、教室掲示等の言語環境の整備を進める。 ○教師は、タブレットや電子黒板等情報機器を活用し、少人数であることを活かした多様な学び、効果的な学びを図れるように、情報活用能力の育成に努める。 ○ICT機器の活用に向けた基本的な操作方法や活用のアイデアについて研修する。	○全教員が各教科・領域において授業実践に取り組む。 ○全教員1回以上の研究授業を実施し、指導力の向上に努める。 ○ICT機器を活用した「子どもたちのつながりを大切に授業づくり」を考える	
		○オープンスクール(学習発表会)の開催 ○行事等での地域・保護者との連携協力	○教科で身についた言葉の使い方を日常生活や総合的な学習の時間等で活かせるように指導する。	
	○学力向上に向けた小中、小小連携の推進	○上野台中学校区の4校交流を実施する ○中学校との連携を図っていく	○児童・生徒の様子を交流し、校区の状況を把握するとともに児童生徒理解に努める ○6年生を中心に、児童の課題や実態について中学校と交流の場をもつ ○小中学校で共通の目標をもって教育活動に取り組む ○みんなで育てよう～上野台中学校区の保幼・小中連携～の取り組みを定着させていく	